



ゆかいな

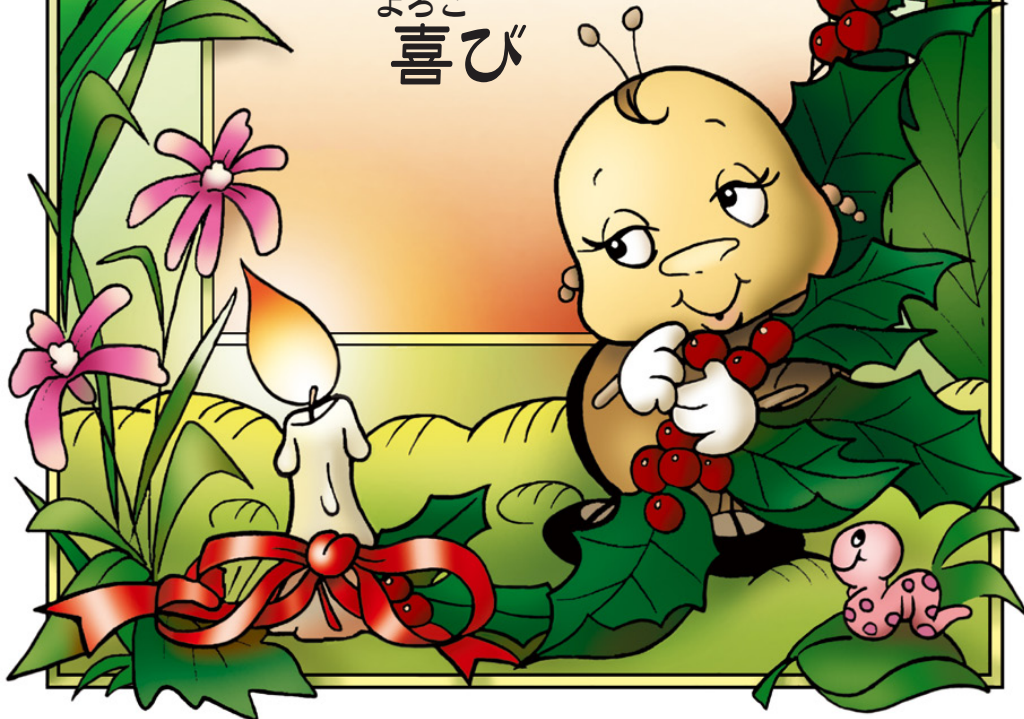
むし

虫たち：

クリスマスの

よろこ

喜び



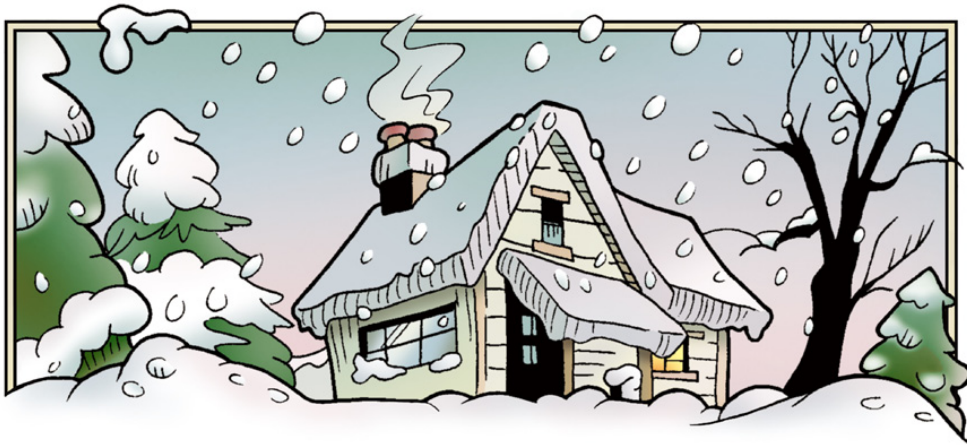
「おじいちゃん、虫たちが 出てくる、クリスマスの お話は ある？」
トリスタンが たずねました。

「では、お話の 本を 見てみると するか。取って来て くれるかい？」
ジェイクおじいちゃんが 言いました。

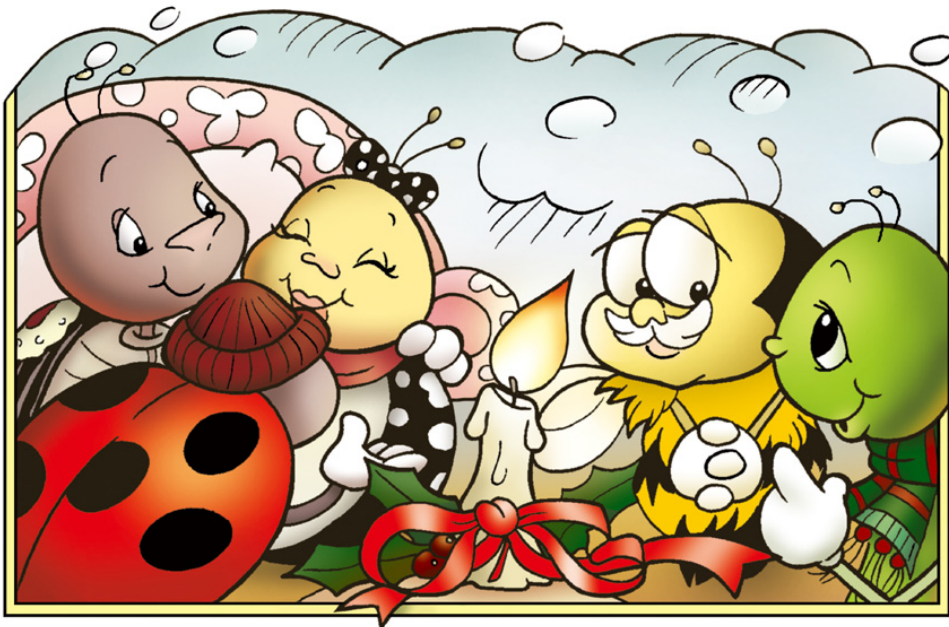
トリスタンはおじいちゃんのお気に入りのお話の本を
さがすために、階段を かけ上がって 行きました。本を 手に
もどって 来ると、おじいちゃんのとにりに ちょこんと
すわりました。早く お話が 聞きたくて、うずうずしています。

「ああ、これだ。『クリスマスの 喜び』！」 おじいちゃん
は にっこり ほほえむと、お話を 読み始めました・・・





ある冬の晴れた日のこと。夕べふった雪のおかげで、地面は、白くてやわらかい毛布におおわれていました。仲良しの虫たちが、よばれた場所へ向かって、いそいそと集まってきます。通った後には、ジグザグの足あとが付いていました。



まもなくすると、みんな、居心地のいい地下の穴に集まりました。身を寄せ合って温まります。

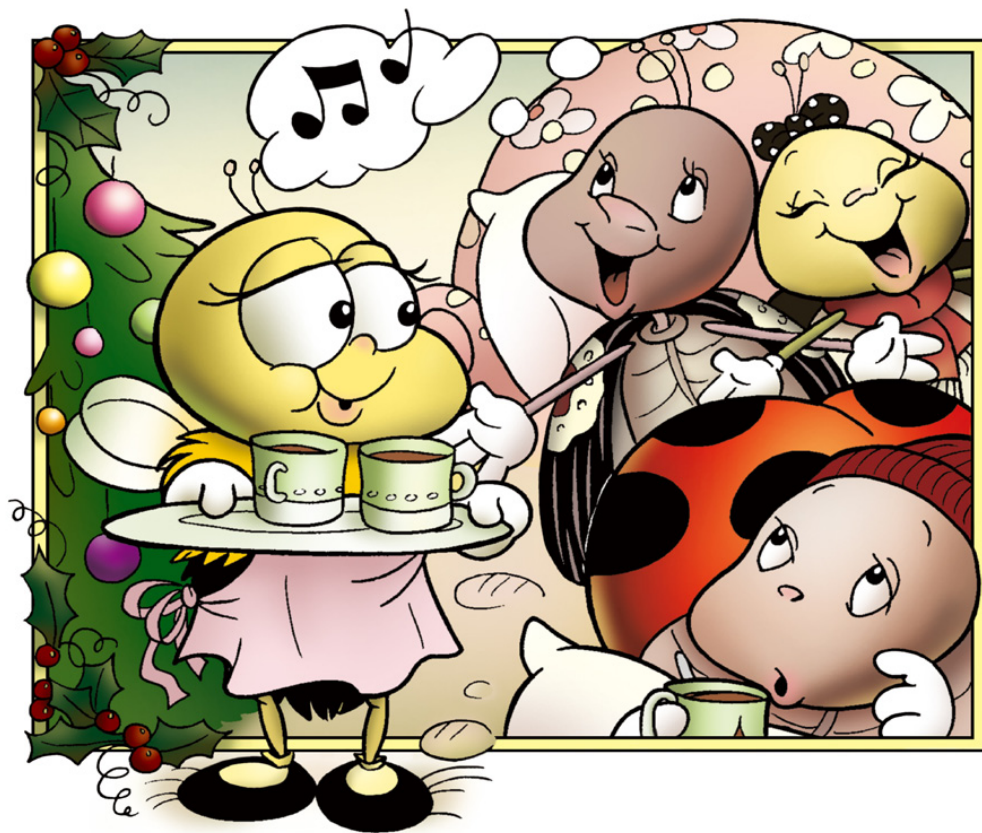
「ぼくね、考えてたんだけど。」と、ウォーレスが話し始めました。「今年のクリスマスは、近所の虫たちのために何かできたらステキだなあと思って。」

「まあ、楽しそうね!」と、ドゥルーディが声を上げました。

「それで、何かアイデアはあるの?」と、リンカーンがたずねました。

「ううん。それで、みんなに来てもらったんだ。話し合おうと思ってるね。何か、アイデアはない?」と、ウォーレス。





「そうねえ。クリスマスは、^{あた}与える^{とき}時よねえ。」^{かんが}考えこみながら、ビッツが言いました。

「それに、^{うた}歌う^{とき}時。」スペックスとジバーが、^{くち}口を^いそろえて言いました。

「きっと、いいアイデアが^で出ると^{おち}思ってたよ。」ウォーレスはにっこりしました。

「じゃあ、次は^{つぎ}何を^{なに}すればいいかしら？」と、ジバー。みんな、シーンとなりました。

ついに、リンカーンが^{かんが}考え^{ぶか}深そうに^い言いました。「ぼく、^{かんが}考えてたんだけど。クリスマスは、イエス様^{さま}の^{じょうび}たん生日^{さま}でしょ。イエス様はご自分の^{じぶん}たん生日^{じょうび}に、ぼくたちに^{なに}何を^{なに}してほしいかな？」



「イエス様^{さま}に^き聞いてみようか。」と、ウォーレス。みんな、うなずきました。

8ぴきの^{むし}虫^{あた}たちは^いみんな、^{あたま}頭をたれて、いっしょに^{いの}祈りました。
いの^お祈り終えると、ご近所^{きんじょ}さんたちのためのクリスマス^{けいかく}計画^{はじ}を^{はじ}始めました。



「きよし、この^{よる}夜。」
リンカーンがふるえる^{こえ}声で^{うた}歌うと、
ため息を^{いき}つきました。「無理だよ！
か^{ほそ}細い^{こえ}声しか^で出ないもの。」

ジバーが^い言いました。
「あきらめるのは^{はや}早いわ。^{れんしゅう}練習すれば
いいのよ。スペックスも、いっしょに
やりましょうよ。」

3びきの^{むし}虫たちは、^{こんど}今度はいっしょに^{うた}歌い^{はじ}始めました。^{なんど}何度か
^{なお}やり直しているうちに、^{かれ}彼らの^{こえ}声は^{みごと}見事な^{がっしょう}合唱になりました。



「きよし、この^{よる}夜、
^{ほし}星は^{ひか}光り
^{すく}救いの^こみ子は
^{はは}み母の^{むね}むねに
^{ねむ}眠りたもう。
^{やす}いと^{やす}安く。」

「とってもステキだったわ！」 ドウルーディが^{おおこえ}大声で^い言いました。



すると、スペックスも ドウルーディの方を見て言いました。「うわあ！ すごく すてきな クリスマス・バスケットができたね！」

地面には、プレゼントや おいしそうなお菓子がいっぱい入って、ヒイラギで かざられた かごが ならんでいます。

「みんなが 一生けん命 用意してくれた おかげだよ。本当に、ステキだね。」 葉っぱに 何か 書いていた ウォーレスも、顔を上げて 言いました。

「ウォーレスは 何を してるの？」 ビッツが たずねました。

「近所に いる 虫たちの 家族の リストを 作ってるんだ。かごを配るためにね。」と、ウォーレス。



「なん か ぞく
「何家族いるの？」と、ドウルーディが たずねました。

「1 2 家族かな。」

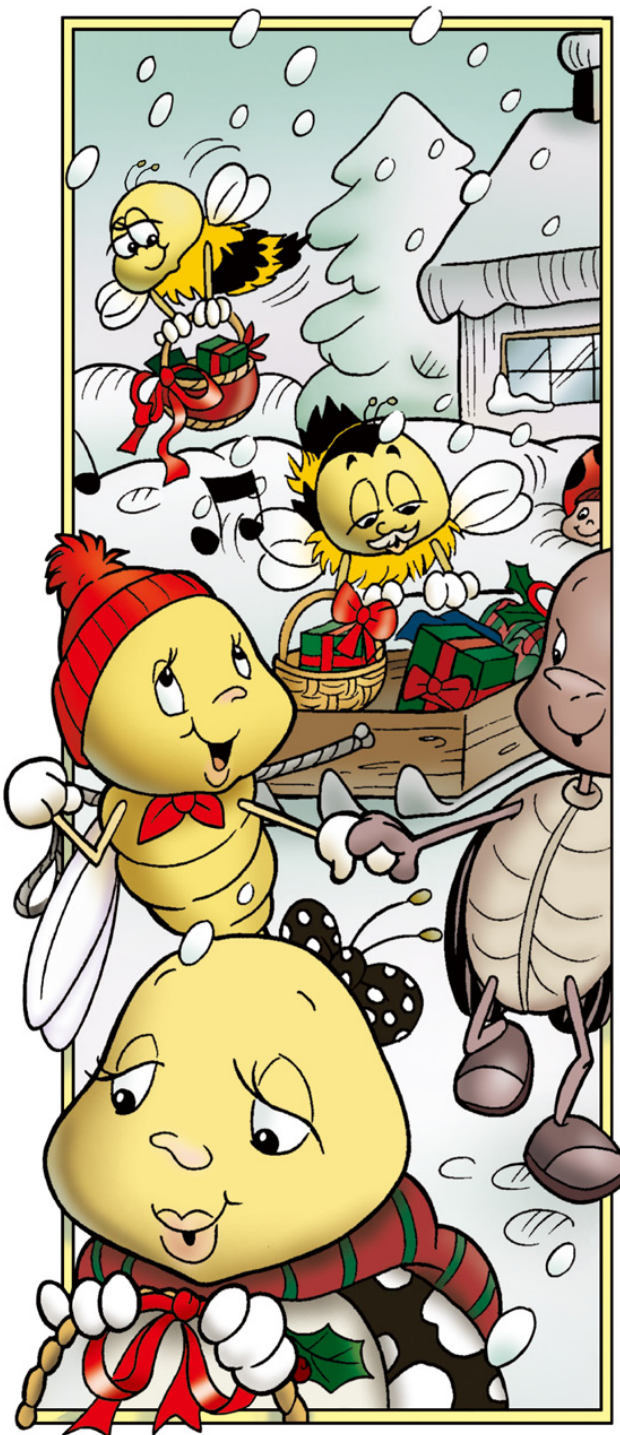
「それなら、あと もうちょっとね。」 かごを 数えながら、ジバーが 言いました。「あと 2 つで、1 2 個に なるわよ。」

「間に 合いそうで、本当にうれしいわ。もう クリスマスイブだもの。今夜 配れるわね。」と、ビッツ。

「わくわくするなあ！ 待ち切れないよ！」と、リンカーンも 言いました。

「さあ、残りの 2 つのかごを 仕上げよう。そうしたら、準備 ばんだ。」と、ウォーレス。

「そうだね！」と、みんなが 口を そろえて 言いました。そして、せっせと 作業を 進めました。



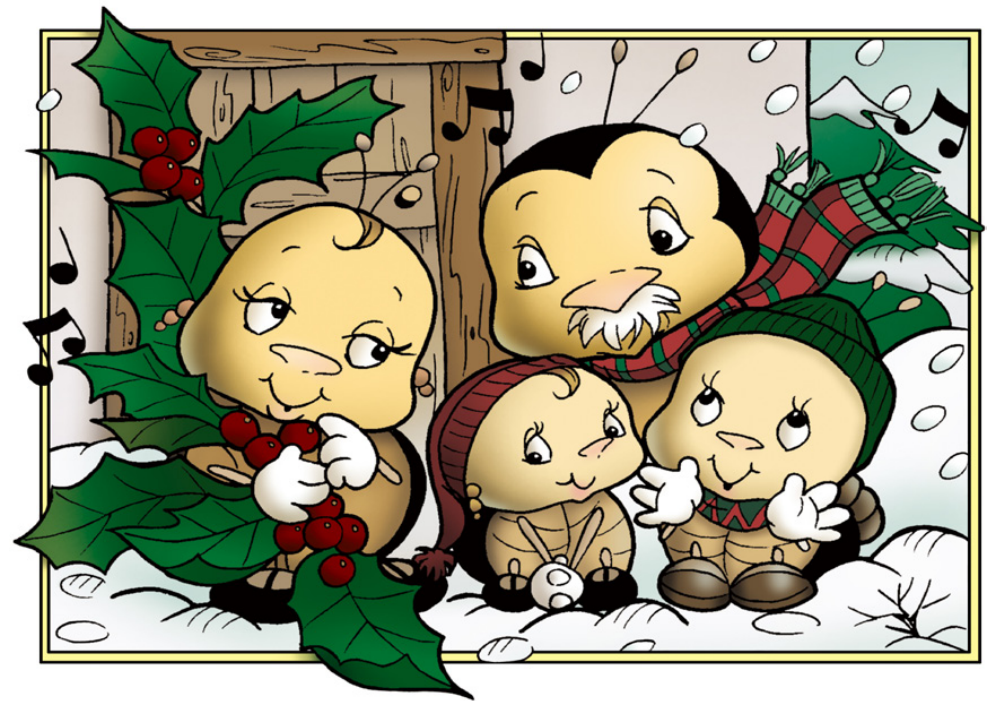
そら 空からは、ゆき 雪が
はらはらと 舞い降りて
いました。虫たちが
ある 歩くと、あしもと 足元で ギシギシと
おと 音が します。8ぴきの
むし 虫たちは、しず 静かに
キャロルを 歌いながら、
むら なか ある い
村の中を 歩いて行き
ました。

むし 虫たちは、カブトムシ
ふう ぶ いえ つ
夫婦の 家に 着きました。

「こんばんは、
カブトムシさん。」と、
ウォーレスが あいさつ
しました。

「こんばんは。そして、
メリークリスマス！」と、
カブトムシの ご主人が
い 言いました。

「メリークリスマス。
なん の ご用かしら？」と、
カブトムシ夫人が
ふ じん
たずねました。



「わたしたち、クリスマスプレゼントを とどけに 来たんです。
それから、クリスマスキャロルを 歌いに。」と、ドゥルーディが
むねを はずませながら 言いました。

「まあ、すてき！ 本当に やさしいのね。」と、カブトムシ夫人。

リンカーンが 歌い 始めました。「きよし、この 夜。」すると、
ほか の 虫たちも 後に 続きました。カブトムシ夫婦と 子どもたちも
みんな、いっしょになって 歌いました。

うた が 終わると、カブトムシ夫人は、来てくれた 虫たち
みんなに ハグして 回りました。「わざわざ 来てくださって、
ありがとう。おかげで、今年は すばらしい クリスマスに
なったわ。」





「メリークリスマス！」 8ぴきの虫たちは そう 言って、次の
いえ へ 向かいました。

虫たちは その夜、行った 先々で、会った 家族に ほほえみと
よろこ びと 幸せを ふりまきながら 過ごしました。それが 終わると、
8ぴきは おたがいに 別れを 告げて、自分の 家へ 帰って行きました。



「最高の
クリスマス
だったわ。」
と、ビッツ。

「ほんとう
「本当にね。」と、
みんなも 言いました。



「ぼくも、クリスマスには
そういう ことを してみたいな。
だけど、何が できるかなあ？」
お話が 終わると、トリスタンが 言いました。

「それはいい 質問じゃな。」と、ジェイクおじい
ちゃん。「おとなりの デリックに 何か してあげ
られるんじゃないか？ お父さんとお母さんの ために
クリスマスカードを 作る ことも できるし。周りの
人たちの ために できる ことは、いくらでも あるぞ。
みんなの ために 何が できるか、神様に おたずねしては
どうかい？ きっと、いい アイデアを お持ちだよ。」

「うん、そう するよ。」 そう 言って、トリスタンは
祈りました。





今年のクリスマスはトリストンに
 にとって、最高のクリスマスに
 なるでしょう。イエス様が
 ご自分のたん生日に 最も
 願っておられる ことを
 しているからです。
 トリストンは 周りの
 人たちの ことを 思い、
 みんなを 幸せに したいと
 思っているのですから。



教訓：

周りの 人たちに あげられる 最高の クリスマス
 プレゼントは、愛の こもった 親切な 行いという
 プレゼント。周りの 人たちを 幸せに してあげると、
 神様も 喜んでくださいます。

